

平成29年度 技術・家庭科 授業改善推進プラン

大田区立蓮沼中学校

1 昨年度の授業改善推進プランの検証

(1) 成果

- ・座学と実技の授業を分けて行い、知識を技能に応用する経験をさせることができた。

(2) 課題

- ・より快適な暮らしを目指し、具体的な例を取り上げ実践していく。
- ・様々な実習を実施し、ものづくりの基礎基本を身につける。
- ・生活や技術についてより関心をもたせて、生活を充実向上するために進んで実践しようとする力を育成する。

2 大田区学習効果測定の結果分析

(1) 達成率（経年比較）

	平成29年度結果	平成28年度結果	平成27年度結果
第1学年	実施なし		
第2学年	実施なし	(第1学年時)	
第3学年	実施なし	(第2学年時)	(第1学年時)

(2) 分析（観点別）

① 第1学年

関心・意欲・態度	思考・判断・表現	技能	知識・理解
食生活に関する関心があまりなく、栄養価や食品への興味も薄い。ものづくりに関する意欲は高く、積極的に進めることができている。	日常生活に対する関心が不足しており、同時に知識も足りないため、生徒自身での判断や表現力に欠ける部分がある。	もの作りに関する意欲は高いが、技能面での知識は低い。裁縫に関しては、基礎基本から確認する必要のある生徒が多く見受けられる。	食生活における関心が低いため、知識も不足している。物作りに関しては、個人差がある。

② 第2学年

関心・意欲・態度	思考・判断・表現	技能	知識・理解
ものづくりに対する関心や意欲には非常に個人差がある。基礎基本が身につけていない部分も多く見受けられる。	作品製作の基礎基本が身につけていない部分があり、全体の指示を聞くだけでは、作業が進まない生徒が多い。	もの作りに関しては、技能レベルに個人差があるため、積極的に作業をする生徒、指示がないと進められない生徒がい	ものづくりの経験が乏しいため、材料や用具の使い方の知識が不足している。

		る。	
--	--	----	--

### ③ 第3学年

関心・意欲・態度	思考・判断・表現	技能	知識・理解
作業そのものへの関心・意欲は感じられる、基礎基本的な学習がおろそかになりがちである。ちょっとしたつまずきにも乗り越えず、避けようとしてしまいがちである。	日常生活のなかで、ものづくりの経験に乏しく、授業や課題の内容を日常生活と照らし合わせて考えられない生徒が多い。	ものづくりの技能が必要なことであるという意識が低く、丁寧さに欠ける生徒が見られる。調理やコンピュータに関しては、個人差が非常に大きい	全体的につくる経験が少ないので、材料の種類やその特徴等に関する知識が不足している。また、覚えることはできるが、それらを組み合わせることが苦手である。

## 3 授業改善のポイント（観点別）

### (1) 第1学年

関心・意欲・態度	思考・判断・表現	技能	知識・理解
日常生活の大切さを理解させるべく、様々な実習を通して、より快適な暮らしのための衣食住について関心を高めさせる。	日頃の生徒自身の生活を振り返らせたり、身につけた知識の日常生活での活用を考えさせ、より自立した快適な暮らしを目指していく。	ものづくりや調理実習など様々な実習を繰り返し実施し、基礎基本的な技能を身につけさせる。	学習した知識を日頃の生活で生かすべく、授業の中でもより日常的な例を用いて指示を行っていく。

### (2) 第2学年

関心・意欲・態度	思考・判断・表現	技能	知識・理解
作品製作では、自分自信の作業のスピードを理解させ、見通しを持って作業を進めるよう促していく。わからない部分は生徒間での教え合い、関心を高めさせていく。	より快適な暮らしのための衣食住について、具体的な例を取り上げ、実践していく。学習したことがどのように日常生活に生かされているのか考え、生活の中で実践していくよう促す。	ものづくりに関しては非常に個人差があるため、実習を通して基礎基本を身につけていく。指示を待つだけでなく、自ら進んで作業を進める積極性を身につけさせる。	学習した知識を日頃の生活で生かすべく、授業の中でもより日常的な例を用いて指示を行っていく。

### (3) 第3学年

関心・意欲・態度	思考・判断・表現	技能	知識・理解
作品製作において、完成までの流れを提示し、見通しを立てる意識付けをする。	生活の自立を目標とし、生活に直結した自分自身で体験できる部分に力点を置き、学習したことをどの	ものづくりに関しては基本的な作業経験を繰り返し行う。また、どうすればうまく	得た知識を生活の中に役立てることができるよう、課題解決の道筋の提示を多くす

<p>生徒同士の意見交換を取り入れ、意識を高める。</p>	<p>ように日常生活で生かすか、あるいはどのように生かされているかを考える道筋を示す。</p>	<p>できるかという過程をしっかりとアドバイスし、早めにつまずきの発見を促す</p>	<p>る。易しい課題を多く行い経験を増やす。導入の段階で、実体験に即した内容を提示する。</p>
-------------------------------	---	--	--